

## 伝統的工芸品フェア「第22回文房四宝まつり」の開催について

### ◆目的

古来より書齋において大切にされた、文房四宝「筆・紙・硯・墨」の産地（広島県熊野町・鳥取県鳥取市・宮城県石巻市・三重県鈴鹿市）の地域間交流を通して、伝統的工芸品を広く紹介し、日本の生活と風土に根ざした、手づくりの技と伝統文化に接する機会を提供することにより、伝統的工芸品に対する理解と認識を高め、伝統産業の振興を図る。

◆名称 伝統的工芸品フェア「第22回文房四宝まつり」

◆開催日時 令和6年10月19日（土） 10時～17時

◆開催会場 東京都台東区立浅草公会堂（東京都台東区浅草1-38-6）

◆主催 第22回文房四宝まつり実行委員会

◆構成団体 広島県熊野町、鳥取県鳥取市、宮城県石巻市、鈴鹿市  
熊野筆事業協同組合、鳥取県因州和紙協同組合、  
雄勝硯生産販売協同組合、鈴鹿墨本舗

◆後援 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会、熊野町、石巻市、  
鳥取市、鈴鹿市、鈴鹿市教育委員会、鈴鹿商工会議所、  
一般社団法人鈴鹿市観光協会

### ◆事業内容

○文房四宝 四産地による伝統の技の実演

- ・熊野筆制作実演
- ・因州和紙紙すき実演
- ・雄勝硯制作実演
- ・鈴鹿墨制作実演

○筆・墨・硯・紙などの展示や販売

○筆・墨・硯・紙などの制作体験

○特別企画 「墨博（すみはく）」

【1部 これまで-So far-】

まっさらな状態の会場を、和太鼓と書で演出しながら創り上げる舞台

【2部：これからも-from now on-】

和太鼓と6つの書のチームによるパフォーマンス

【3部：無敵！】

無敵プロジェクトによる書道パフォーマンス&弾き語りライブ

出演：矢野きよ実さん、中村耕一さん

○「鈴鹿墨書道わあるどかつぷ」の入賞作品の展示

令和6年度に開催した、鈴鹿墨書道わあるどかつぷの入賞作品18点の展示

◆主催である 第22回文房四宝まつり実行委員会 実行委員長 伊藤晴信さん（37歳）のコメント

このたび、無事に文房四宝まつりを開催する運びとなり、大変うれしく思っています。文房四宝に関わる4つの産地が一堂に会して、筆・紙・硯・墨の魅力を、展示や実演、書道パフォーマンスなど様々なイベントを通してPRします。東京での開催ということで、ぜひ多くの皆さんに会場にお越しいただければ幸いです。

【同時開催行事】

第27回鈴鹿墨展

- ・鈴鹿墨を使用した書道家の作品の展示
- ・鈴鹿墨を使用した体験コーナー

【問い合わせ先】

第22回文房四宝まつり実行委員会事務局

鈴鹿墨本舗

〒510-0254 鈴鹿市寺家 5-5-15

Tel : 059-388-4053

## 【参考資料】

### ○文房四宝まっりの開催履歴

第1回	平成3年	宮城県雄勝町	雄勝町 雄勝硯伝統産業会館
第2回	平成4年	三重県鈴鹿市	白子ショッピングタウン・サンズ
第3回	平成5年	鳥取県佐治村	プラザ佐治・記念ホール
第4回	平成6年	広島県熊野町	筆の里工房
第5回	平成7年	宮城県雄勝町	東京「THE GROUND」
第6回	平成8年	広島県熊野町	熊野町民会館
第7回	平成9年	三重県鈴鹿市	イオン鈴鹿ショッピングセンター
第8回	平成10年	鳥取県佐治村	鳥取県民文化会館
第9回	平成11年	宮城県雄勝町	仙台市 イベントホール「松栄」
第10回	平成12年	三重県鈴鹿市	名古屋中央郵便局ゆうプラザ
第11回	平成13年	広島県熊野町	筆の里工房
第12回	平成14年	鳥取県佐治村	鳥取市 鳥取県民文化会館
			～以降隔年開催～
第13回	平成16年	宮城県雄勝町	石巻市 秋田谷ビル特設会場
第14回	平成18年	三重県鈴鹿市	四日市市 三重北勢地域地場産業振興センター
第15回	平成20年	広島県熊野町	筆の里工房
第16回	平成22年	鳥取県鳥取市	とりぎん文化会館
第17回	平成24年	宮城県石巻市	石巻市 石巻グランドホテル
第18回	平成26年	三重県鈴鹿市	鈴鹿市文化会館
第19回	平成28年	広島県熊野町	筆の里工房
第20回	平成30年	鳥取県鳥取市	とりぎん文化会館
第21回	令和4年	宮城県石巻市	雄勝硯伝統産業会館
第22回	令和6年	三重県鈴鹿市	台東区立浅草公会堂

### ○無敵プロジェクトとは？ 代表：矢野きよ実さん

2011年3月11日の東日本大震災の直後、日本赤十字愛知県代表として、矢野さんが視察のため医師団と被災地に入る。壊滅的な被害を受けた日本の硯シェア90%を誇る硯のまち宮城県石巻市雄勝の地に立ち、その際、瓦礫の中から出てきた傷だらけの硯と出会う。これを機に、被災地の子どもたちの「心の声」を聞く「書」の授業を行うようになる。これ以降、こうした場で交流を持った被災地の子どもたちの「心」を多くの人々に伝える講演や書道パフォーマンスを積極的に行う。現在は、医療、災害、教育、福祉、さまざまな分野からの講演時に、「生きること」、「命の大切さ」を伝えている。